

令和6年度第1回川崎市社会教育委員会議  
青少年教育施設専門部会 摘録

1 日 時 令和6年11月26日(火) 10時00分～12時00分

2 場 所 黒川青少年野外活動センター

3 出席者

(1) 委員

番匠委員、境委員、大津委員、松田委員、藤江委員、太田委員

(2) 事務局

教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進課 柿森課長

こども未来局青少年支援室 菊池課長、佐藤課長

筒井係長、成田職員

(3) 施設

川崎市青少年の家 佐藤所長、齋藤副所長

川崎市八ヶ岳少年自然の家 名取所長、三井副所長

川崎市子ども夢パーク 友兼所長、茂木職員

川崎市黒川青少年野外活動センター 野口所長、大谷事業主任

4 議事

(1) 部会長及び副部会長の互選について

(2) 令和6年度事業進捗状況について

(3) その他

(4) 黒川青少年野外活動センター施設見学(希望者のみ)

5 資料

資料1 青少年教育施設専門部会委員名簿

資料2 川崎市社会教育委員会議規則

資料3 4施設の概要

資料4 青少年の家 令和6年度事業進捗状況

資料5 子ども夢パーク 令和6年度事業進捗状況

資料6 八ヶ岳少年自然の家 令和6年度事業進捗状況

資料7 黒川青少年野外活動センター 令和6年度事業進捗状況

## 6 議事内容

○筒井係長 お待たせいたしました。定刻前ですが、皆様お揃いになりましたので始めさせていただきます。本日はお忙しい中御出席いただきましてありがとうございます。私は本日の進行を務めさせていただきます、子ども未来局青少年支援室の筒井と申します、どうぞよろしくお願いいたします。

初めに本日の大枠の流れでございますが、本日は今季第1回目の部会になりますので机上の次第にありますとおり、まず部会長と副部会長の互選を行います。そのあとは、各施設から令和6年度の事業計画の進捗状況についてご報告いただき、最後にその他意見交換など実施できればと思います。本日初めて黒川青少年野外活動センターにお越しになりました委員の方や、希望の委員の方がいらっしゃいましたら、施設見学の時間をとりたいと思います。終了予定は、12時の予定です。施設見学をご希望される方は、12時30分が終了予定となります。なお、本日の会議でございますが、今期は10名の委員で構成されます。その中から、本日まで出席いただいた委員の人数が6名となり、委員の過半数を超えているため、会議が成立していることをご報告いたします。また、本日は、傍聴者はなしとなります。

続きまして、会議を開催するにあたりまして、今回の公開についてご説明させていただきます。この会議は市の審議会等に準ずる会議となっておりますので、川崎市審議会等の会議の公開に関する条例によりまして、個人情報に関わる事項を除き、公開が原則となっております。従いまして、会議の内容も公開の対象になりますこと、会議録における発言議員の名前も公開の対象となりますので、ご了解いただきますようお願いいたします。

それでは、はじめに、子ども未来局青少年支援室の施設指導調整担当課長の菊池より、御挨拶申し上げます。

○菊池課長 改めまして、子ども未来局青少年支援室の菊池と申します。よろしくお願いいたします。本日は、お忙しい中御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。また、今季の委員に御就任いただきまして、重ねて感謝申し上げます。青少年教育施設専門部会は、川崎市社会教育委員会議規則に基づき、市民、社会教育関係団体、学識経験者、学校関係者の皆様に委員をお願いいたしまして、青少年教育施設の円滑な運営を図るため、各施設における各種事業の企画実施について、報告・審議等をしていただくことが、所掌事務となっているところでございます。

本日も欠席の委員もいらっしゃいますが、今期から新たに大津（おおつ）委員、川腰（かわこし）委員、五十嵐（いがらし）委員、藤江（ふじえ）委員に御就任いただきました。今後も引き続き闊達な御議論を頂戴したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、ここ数年の中での特に大きな動きとして、新型コロナウイルス感染症も落ち着いて各施設もコロナ明けの施設運営を行っているのですが、まだ、施設によってはコロナ前の利用者数に伸びない状況でもあります。そういった中で、最近はこの施設も Facebook や Instagram 等の SNS をより一層活用して登録者数を増やしている状況であることも伺っているところでもあります。併せて、これまでの地域の関係機関などと連携しながら、出前講座や主催事業の広報等様々な戦術で広報に力を入れながら施設の魅力、施設の利用につなげた取り組みを行っていただいているところでございます。

本日の議事においては、今年度の各施設の取組状況も御報告いただきますので、そういった視点でも御確認いただきながらより充実した部会になればと考えております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

○筒井係長 それでは、本日御出席いただいている委員の皆様を御紹介したいと思います。恐縮ではございますが、お手元にあります資料 1 の委員名簿の順番で呼びいたします。呼び出した際には、意気込み等何か一言いただけますと幸いです。

（委員名簿の順に自己紹介）

委員の皆様ありがとうございました。なお本日は川腰委員、五十嵐委員、元木委員、原田委員が欠席でございます。続きまして、指定管理者の紹介をいたします。

（指定管理施設の出席者の紹介）

続きまして、事務局の職員を紹介いたします。

（事務局職員の紹介）

続きまして、机上にあります本日の資料を順に確認させていただきます。

(資料の確認)

資料については以上となりますが、過不足等ないでしょうか。

それではこれより議事に入らせていただきます。はじめに議事(1)にありまして、部会長と副部会長の選任を行います。部会長と副部会長については川崎市社会教育委員会規則第6条第4項の規定により、委員の互選により選出されることとなります。立候補の方はいらっしゃいますか？

(立候補者なし)

立候補される方がいらっしゃらないようなので、事務局からの提案となりますが、部会長につきましては前期で副部会長を務めていただいた番匠委員、副部会長については前期から委員としていらっしゃいました境委員を提案させていただければと考えておりますが、いかがでしょうか。

(拍手)

ありがとうございます。それでは拍手が御承認ということで、今期は部会長を番匠委員に、副部会長を境委員にお願いしたいと思います。ご就任いただいた部会長、副部会長よりご挨拶をお願いします。

- 番匠部会長 昨年副部会長をさせていただきましたが、経験不足で皆様にはご迷惑をお掛けすることもあるかと思っております。精一杯務めさせていただきますので、よろしくお願いたします。
- 境副部会長 その任ではないとは思っておりますが、委員歴が長いということで御指名いただいたようですので、精一杯務めて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。
- 筒井係長 ありがとうございます。それではこの後の議事進行については、番匠部会長にお願いしたいと思います。番匠部会長、お願いします。

○番匠部会長 それでは、お手元の次第に沿って議事を進めたいと思います。議題 2 の令和 6 年度の事業計画の進捗について、指定管理者から 10 分以内で報告をお願いします。また、各施設からの報告のあと、報告内容に関する質疑の時間を 10 分程度設けます。報告内容以外の質問は、議事 3 で質疑応答の時間を設けますので、そちらをお願いします。

それでは青少年の家からの報告をお願いします。

○佐藤所長 青少年の家の佐藤です。令和 6 年度の事業進捗状況として、昨年度は 34,000 人の利用者数の目標を達成しておりまして、今年度も 34,000 人を目標にしております。主催事業の実施状況について、ピラティス&コンディショニング、サーキットエアロ、ノルディックウォーキングについては一般向けの事業で大人の方も来ていただいております。週に 1 回行っております。ほかの施設は 800 円～1000 円程度ですので、参加しやすいようワンコインで行っております。次にチャレンジ体験クラブ、手作り体験クラブ、スプリングキャンプ、サマーキャンプは小学生を対象に、1 泊 2 日で行っております。夏休みや春休みの事業に関してはかなりの申し込みがありますので、今後ニーズに応えるために複数回に分けての実施などを考えております。広報等もきっちりやっているところではありますが、抽選が外れた方からは「初めから決まっていたのではないか」といったご意見をいただくこともあります。そこについては、施設として厳正にルールに則ってやっておりますというご説明をしております。施設を使つての事業のため、やはりプログラムに関しては人数の限界はありますが、できるだけ参加希望の皆さんに参加いただけるよう、複数回の実施など、みんなで考えながら応えていけたらと考えております。続いて、八ヶ岳宿泊体験会は、八ヶ岳少年自然の家さんと連携をしながら 1 泊 2 日で登山体験を行っております。頂上まで登るとやはり素晴らしい景色が見られますので、川崎の子どもたちが日常ではできないような経験を提供したいという考えから計画をしております。次にのびのびくらぶ（みつばクラス、よつばクラス）ですが、少し参加人数が減っている傾向がありますので、近隣の幼稚園・保育園にはチラシを置かせていただいて、広報を進めてまいります。次に、親子水遊びは本施設の持っているプールを使用します。夏のプール解放が終わった頃に幼児向けに膝まで水位を低くして水遊びができるようにしております。ユースワーカーズ倶楽部は本施設のサポーターという形で高校生や大学生が見学に来てくれて、参加し始めております。シニアサポーターズクラブは 1 週間に 1 回卓球等を通して交流を進めており、新しい会員の募集には様々な場所での広報をお

こなっております。

資料（２）の主催事業における評価や課題については、サマーキャンプの受付時に予想を超える人数の電話予約があり、多くの方の断りの対応をすることとなってしまったので、今後なんらかの対応は必要ということで課題として挙げております。その他の事業としては、ほのぼのスクールについては今月実施をしました。二十数年続けている事業になります。小学生と中学生が本施設に４泊５日で宿泊し、本施設から学校へ通学するものになっています。次に親子スキー教室は１２月に八ヶ岳少年自然の家さんとの共催で行う予定です。こちらについて人数も集まっておりますので予定通り行います。最後に青少年の家フェスタは３月２日に行う予定です。ユースワーカーズクラブが中心になり、施設の利用者の方々に参加していただきながら盛り上げていこうと準備しております。主催事業については以上になります。その他施設整備に関することや利用状況に関する事は齋藤副所長から報告いたします。

- 齋藤副所長 利用状況については、４月～１０月の累計にはなりますが、日帰りの利用者は対前年１１６名増でほぼ横ばいです。宿泊延べの対前年が２,４４５名増で大幅に増えております。特に増加が顕著なのが６月、７月、９月です。利用団体数については、対前年は日帰りも宿泊もほぼ横ばいですが、宿泊の延べ人数が３４団体２,４４５人の増加ということで、分析としてはコロナが明けて大型の団体が戻ってきたというのが大きいです。

続いて施設設備に関する事でいうと、安全安心と建物の美化のため適宜指定管理者で修繕を行っているところです。６月、７月、８月に水道と、それとガスも若干使用量が上がってしまっていて、漏水をしているのではないかと、ということで調査をしてみました。先日やっと漏水箇所が特定され、明日緊急対応を行う予定です。以上になります。

- 番匠部会長 ありがとうございます。それではただ今の報告について、質問等ございましたら挙手をお願いいたします。

- 太田委員 のびのびクラブでは参加者が減っているというお話と広報の強化をされているというお話がありましたが、参加者減少の原因は広報不足にあるということで広報の強化に取り組まれているのか、企画自体によるものなのか、例えば水曜日開催が適切かどうか、参加者からどのような声があったなど、どういった分析をされているかについてご教示ください。

- 佐藤所長 幼稚園や保育園が参加しやすいということで水曜日に設定しております。  
分析としては年長の子が卒園をして1年生になったことで参加者が減少したと考えていますが、やはりもう少し早めに広報すれば、プログラムの内容次第で参加不参加を選べるというご意見をいただいているため、現在は計画して2週間後に広報しているところですが、今後はもう少し早く決定して広報していると考えております。のびのびクラブの参加者だった子が、小学生を対象としたチャレンジ体験クラブや手作り体験クラブの参加者に繋がっていきますので、長い目で見て取り組んでいきたいと考えております。
- 太田委員 ありがとうございます。
- 番匠部会長 他に質問のある方はいらっしゃいますか。
- 大津委員 施設の老朽化ということで色々聞いておりますが、分かる範囲で構いませんので12月くらいからの工事状況を教えてください。ホールのLED化に伴う足場の設置ですとか、厨房の工事もいつぐらいまでかかるかなどです。
- 齋藤副所長 プレイホールとオリエンテーションホールの天井照明のLED化については12月から1月末まで2か月かけて更新をする予定です。また、厨房の床張り替えをメインとした工事については12月1日から、今のところ2月末までを予定しております。厨房の機器を食堂ホールに移動させるので、食堂については12月、1月、2月と3か月使えなくなる予定です。
- 大津委員 配管についても交換されると聞いておりますが。
- 齋藤副所長 そうですね、厨房の中の配管を変えます。
- 大津委員 その工事の間は食堂で食事ができないということですね。
- 齋藤副所長 はい、そうです。食事については利用される団体の方でお弁当の手配をいただくか、外に食べに行く方法で対応いただきます。通常は食事の場所を限定しておりましたが、その間は施設内のどこでも食事は可能ということにする予定です。

○大津委員 分かりました。

○番匠部会長 宿泊延人数が 14,000 人で昨年度と比べても着実に増えているということで、コロナ期間に利用を控えていた団体が戻ってきたということだと考えられますが、コロナ前を 100 とすると現在はどれくらい戻っているイメージですか。

○齋藤副所長 コロナ前が 4 月から 10 月の累計で 16,000 人くらいおりまして、今年度は 11,000 人くらいなので、70%くらいです。

○番匠部会長 分かりました。ありがとうございます。

それでは続きまして、こども夢パークから報告をお願いいたします。

○友兼所長 友兼です。よろしく申し上げます。利用目標は例年どおり子どもの居場所を作るということと、中高生の居場所作り、権利の推進を旨としております。利用者数と団体数は昨年度より減っているところではありますが、分析として夢パークは乳幼児を含めた外遊びが中心的な活動としてあるので、今年の夏の猛暑による利用の控えが原因だと考えております。保育園等も暑すぎるので外出を控えます、といったキャンセルも続きましたので、その影響が 7 月、8 月のマイナス 1,000 人に顕著に出ています。

主催事業については、定期的に行っている金曜あそぼう会、おはなしパーク、親子でもっとあそぼう会、ゆるりであそぼうはなそう会が乳幼児親子を対象にした活動となっていて部屋の中で遊ぶのも良いけど、ちょっと外遊びしませんか、という乳幼児親子へのしかけとなる活動であり、親同士がちょっと先輩ママに話を聞く交流の場になっております。せせらぎ清掃は、ウォーターライダーがあるので、スタッフが 2 週間に必ず清掃はしていますが、せせらぎ池にものごく泥がたまるので、ただ清掃するだけでなく子どもたちを巻き込んで一緒に泥かきなどの作業ができないかなと考えた活動です。メンテナンスの日についても同様に、常に子どもたちと一緒に何かできないかと考えながら日々活動しております。

中高生に向けた事業としてはスタジオ講習を月 2 回プラス不定期で開催、KujiRock へ向けた活動の場としてサタデーナイトスタジオを月 2 回実施しています。今年は橘高校や多摩高校からの参加者が多くいました。今年度 KujiRock は既に 3 回実施しております。

次におさがりバザールは長く続けている活動で、地域の中でおさがりし合いま

しようという会で、やはり乳幼児親子に大変人気です。持ってくる人も持って帰る人もたくさんいます。GWにはあそぼうデイということで3日、4日、5日にミニイベントを実施しました。毎年海の日に行っている夢パーク祭りでは1,000人を超える来場者が泥遊びと水遊びを楽しみ、先日のこどもゆめ横丁は1575名の来場者、31店舗の出店があり、125名の子ども達が出店を行いました。また、YTK（横丁楽しくしよう会）といってこどもゆめ横丁を盛り上げるためにどんなテーマが良いか等を子ども達が中心となって考える会がありまして、その中で面白い提案がありました。大人がいきなりいっばいいくと焦るし、自分たちの買い物の時間が限られるので最後欲しい店が売切れたりするという話から、最初の45分間はこども優先時間を作ろうという提案があり導入したところ、子どもからも大人からも大変好評でした。

合同見学会は月1回見学会を開いていて、その他に視察の受け入れをしているところではありますが、かなり勢いが止まらないです。人数だけで見ると9月も10月も100名前後の視察の方が来ているので、現在はなんとか対応できていますが、今後のひとつの課題かなと考えています。

今後も子どもが意見を出しやすい環境作りや、その子どもの声を周りに周知していくこと、また、初めて来る子たちへの説明など、引き続き工夫をして活動していきます。

フリースペースえんの登録者数は140名くらいで小学生が相当増加しています。今後クリスマスイベントや新春イベントを行っていきますが、その中で課題として夏のサマーキャンプや冬のスキー合宿は物価等のいろいろな高騰で参加費の負担が上がっています。1人4万円くらいかかっている状況で、僕らもどうにか金額を抑えたりできなかなと思っています。やはりその負担が全部家庭に行ってしまうのはなかなか厳しいなというところで、大きな課題と感じています。

工事については、今は空調の工事をしていて、その他1月から3月の春休みの前までサイクリングロードの全面張替えをやるのでその間はサイクリングロードが使えなくなる予定です。あとは尻手黒川のトンネル工事をして出た土を一部夢パークに運んでもらって、4年ぶりに大きな土山を増設したいな、と打ち合わせしているところです。

最後に、先日夢パークがグッドデザイン賞をいただきました。こどもにとって、人にとって遊びと、作るということは大事だよねと20年間やってきたことを評価いただいたようです。その時にインスタのフォロワー数もぐんっと増えたようで、今はフォロワー数が6,500人くらいいるんですけど、その時に100人くらい増えたスタッフから聞きました。雑駁ながら以上が報告とさせていただきます。

- 番匠部会長 ありがとうございます。それではただいまの報告について質問がある方は挙手をお願いいたします。
- 境委員 スキー合宿をプログラムとして企画されているとのことですが、やはり昨今のバスのチャーター費の高騰が、参加費が上がってくる原因としては大きいのでしょうか。
- 友兼所長 大きいですね。あとは、宿泊費も大きいです。熱が出た時などに対応しやすいということで、できるだけゲレンデの隣にある宿泊施設を選定していて、50人くらいで貸し切れる民間のペンションを、となると宿代とバス代で高くなってきてしまうというのが現状です。
- 境委員 エリアとしてはどの辺に行っているのでしょうか。
- 友兼所長 去年は木島平に行きました。55人で行って、宿に入りきらなかったのが今年尾瀬岩鞍に行ってみる予定です。それでも4万円でいけるかどうか、といったところですね。
- 境委員 木島平だと少し遠いかなと言ったところで、尾瀬岩鞍の方が少し近いですかね。
- 友兼所長 そうですね、少し近くなりますが、やはりバス代だけでも40万円近くはかかってしまうかなといったところです。1人4万円となると、兄弟で参加すると8万円、12万円になってしまうので、課題感が大きい状況です。
- 番匠部会長 ありがとうございます。他にありますか。
- 松田委員 おさがりバザールというのは、一般に向けても募集していますか。
- 友兼所長 はい、一般利用者の方や近所の方が持ってきていただいて、欲しいものがあったら持って帰っています。
- 松田委員 呼びかけというか、広報はされているんですか。
- 友兼所長 2か月に1回、通信に載せていて、現状はそれで回っています。子ども自身が「これ来たい」と自分で選んで持って帰っているのも見かけます。

あとは稀に、持って帰って売却しているんじゃないかなと、見受けられる方には声掛けなどをしていますが、基本的には多くの方が楽しく服を選んでいきます。

○番匠部会長 ありがとうございます。その他ありますか。

○太田委員 えんの登録者数 140 人くらいという話の中で小学生が増えているとありましたが、最近の傾向としてはどういった困りごとであったり、状況にいる方が多いのでしょうか。そこから、学校との連携やフィードバックが難しい課題だとは思いますが、どういった取り組みをされているか御教示ください。

○友兼所長 小学生男児が多く、こだわりの強い子同士が度々喧嘩をしたり、叫び声を上げるシーンもあります。ただ、年上の子たちで「あの頃の自分の気持ちを思い出すなあ」と言って諫めに入ってくれる中高生がいたり、もちろんスタッフも間に入りますが、スタッフと子どもだけではなく、居場所の中での子ども同士の関係というも築いているのだなと感じています。

学校との連携に関しては、市外も含めて 50 校から 60 校の学校に毎月出席報告を提出しているところです。あとは先生から連絡をいただいた時や合同見学会で実際に教員の方がいらっしゃった時に情報共有をしています。

○番匠部会長 ありがとうございます。その他ありますか。

○松田委員 川崎市の資料で中学生の引きこもりが多いと聞いています。報告の中で小学生が増えているという話はありませんでしたが、中学生はどれくらい利用しているのでしょうか。

○友兼所長 人数的には中学生は 36 名です。小学生よりも中学生は比較的登録後に来る回数が少ないです。フリースペースえんは 10 時半から 18 時まで開いていて、小学生の子は 10 時前には来ていて夢パークで少し遊んでからフリースペースえんの方に来る子が多い中で、中学生の子はもう少し遅めの時間に来ている印象です。毎日来るというよりは、登録をして、いつでも来れるという安心感の中で家にいるというのがあると思います。

○松田委員 zoom など、オンラインで繋げる活動はありますか。

○友兼所長 音楽や科学など毎月色々な講座をしていて、その中で要望があれば繋げています。あとはNPO 法人としては神奈川県との連携の中で、神奈川県がやっているメタバースという仮想空間の居場所があって、そこでうちの職員が県内の色々な子たちとチャットをしたりビデオ通話したりしています。

○番匠部会長 ありがとうございます。それでは続きまして黒川青少年野外活動センターより報告をお願いいたします。

○野口所長 黒川の報告をさせていただきます。利用目標と利用者数については29,100名を目標としておりますが、届かないかもな、という感じです。夢パークさんもおっしゃられた通り、夏が暑すぎて来ないというのと天候不順によるキャンセルがあります。秋・冬の寒い時期は火を焚くので、暖を取りながらの活動ができ、これからの寒い季節の方が人気になるかもれません。コロナは落ち着いて戻りつつありますが、この4年間で団体の役員さんが変わってしまうと、黒川を利用するという関係性等もイチから作り直しなので、来るのがなかなか難しい現状があります。

主催事業は主なもので、冒険クラブを今年初めて実施しました。通年コースとして同じ子ども達が年5回体験をします。毎回少しずつ課題を用意しているのですが、子ども達の成長が見られて、その点非常に良かったなと思います。また夜の昆虫観察会は、夜中3時にたたき起こして虫を見に行くんですが、3人起きられなかった子もいましたが、仕方ないですね。昼間虫を観察する時には、たまたま通りがかった私に子ども達が「これ見てこれ見て！」語りかけてくるんですね。たくさん調べて私に教えてくれるんですよ。これはもう大成功だな、と思いました。普段虫と触れ合うことが少ない子がですね、これまた普段はない夜中に起きるといった経験をし、探検に行くことも含めて、いい事業だったと思います。

ネイチャーボランティア、里山の整備です。ちょっと参加人数が少ないですけど、実は、講師のスタッフがいつも8名くらいおります。ヤマボウシ自然学校さん、という講師の方がいて、参加者は少人数ですけども、月に一回、第一日曜日に里山の整備をしております。最近、新しいことを始めて、利用者の植木屋さんと、千葉で斜面の崩れているところを生き返らせる方法を学んできて、それを黒川でやらせてほしいと、植樹をしたい、ただ植えるだけじゃなく、しがらみさくと言って、竹の杭を打つ、竹は節を抜くことで空気と雨が入るんだそうです。そうするとそういうところに根を伸ばしていける、というような考え方で

斜面を崩して、崩したところにも落ち葉を入れたり、堆肥を入れたり、土を入れたりしながら、そういうものをつくっていきこうと。そこに、畑のように高木、中木、低木をたくさん植えるんですよ。普通だったらここに桜を植えたら、次に植える桜は離れたところですよ、伸びていった時に困るから。そうではなくて、畳一畳分くらいのところに5～6株苗を植えるんです。それも高木、中木を混ぜて。それらが共生して伸びていく、というのが良いそうなんです。共生することによって根も一生懸命お互いに張る。そうすると土が強くなる。また、平らな場所を作ることによって、雨が流れない。また、自分たちで落ち葉を落として、その土がどんどん良くなっていく、という、手をかけないで里山が回復する、っていう方法なんです。ということを教えていただいて、それをネイチャーボランティアのみんなと一緒にやっています。来月に、中国から高校生が60名ほど来ることになりました。その子たちが、その植樹作業をしてくれることになっています。最初は植樹だけやりたいと、法人の本部に話が来ていましたが、植樹“だけ”はやめてくれと断っていました。うちはそういう活動をやっていて、それを継続してくれるなら受け入れます、と言ったら、逆に先方も乗り気で、今度12月に60人が来てしてくれるので、6カ所出来ます。そうやって、ボランティアの力で里山が整備されていく、でもこれは10年先、20年先を見ないとわからないので、それが本当にいいのかわからないので、またそれを選定したり、様々な点で時間かけなくてはいけないので、先が長い話なんですけれども、そういったものに繋がってっております。

ゴールデンウィークはピザをやりました。300名予定が362名参加、これはコロナが回復したおかげかなと思っております。珈琲焙煎の講座やスパイスの講座、大人向けの講座なんですけれども人気があって、多くの方に来ていただいています。加えてテント村、というのを実施しました。初めてキャンプをやる人たち、グラウンドでテントを張ってみたいかがでしょうか、ということで、また、昨年一度やった際にですけれども、お母さんと子供だけで来ると大変なんですよ。子供二人連れてきて、夕飯作るのも大変。なので今年はまだ全部プログラムで用意しちゃえと、ということでバーベキューだったり、ドラム缶ピザだったりいろんなものを用意して、夜の観察会だったり用意して、参加したい人は参加してください、自分たちでやりたい人は自分たちでやってください、ということでいろいろ用意して、スタッフのトレーニングもかねてそういうのやってみました。非常に皆さんにも喜んでいただけたんですけど、いかんせん夏なので来年やるかどうかは検討中です。テントに泊まった人はほぼいませんでした。一応部屋も取ってあげて、暑すぎる人は部屋で寝てもいいですよ、と。朝、行ってみたら気

持ちよかつたって言ったお父さんはいたけど、そんな程度です。テントは張る体験はするんだけど、もう暑くてテントの中で寝るのもつらいくらいです。だからいつも八ヶ岳を紹介しているんです。これ以外にもおさんぽクラブ、のあそびくらぶだとか、小学生向けのデイキャンプ、スローライフクラブとって、メンマを作ったり、芋掘り体験をさせたりだとか、そういったものも行いました。

点検に関して、施設のことに関しては、その都度やっているのも大丈夫だと思うんですけど、つい先日、障害者トイレの水漏れが発見され、直そうと思ったらもう機械がないそうなんです。関係の職人さんに何とか直してもらいましたが、施設ももう40年になるので、どこか壊れると部品がなければ全部を取り換えなければならなくなってしまうので、その変は今後大変だなと感じています。

今後の取組として、しめ縄飾りという人気のイベントがあります。2月は昨年工事の関係で実施できなかったみそ作りを復活させる予定です。3月には自然体験フェスティバルでここに700人くらい来てくれるイベントもやる予定です。以上です。

- 番匠部会長 ありがとうございます。それではただ今の報告に質問のある方は挙手をお願いいたします。
- 松田委員 ネイチャーボランティアで植樹をすると土が丈夫になる、という話がありました。それは山崩れなど対策も可能なのでしょうか。
- 野口所長 可能なはずで、ということで勉強されてきたことを実践しています。ただ、まだ1年しか経っていないので、今後5年10年をみないと実際は分からないところではありますが、凄いことに春に植えた88苗中、枯れたのは1本だけだったんです。あの夏の暑さをほとんどの苗が乗り切ったんです。秋にやった苗もほぼ定着しました。なのでやり方をちゃんとやれば定着するのだと思いました。次は12月に実施予定ですが、冬の根の伸びない時期にやるのはどうだろうとは思いつつ、藁を引いたりなど霜に当たらないように育てようと考えています。
- 松田委員 スパイス講座とは、何のスパイスでしょうか。
- 野口所長 今回はお店の方に100種類のスパイスを持ってきていただいて、食べ比べをしながら自分の気に入ったスパイスを調合してカレー作りを行いました。スキ

レットを使って1人1個カレーを作り、3人組になって食べ比べてもらいました。平日にもかかわらずたくさん集まりました。

- 松田委員 もう一つ、自然体験フェスティバルは今回3月の何日にやりますか。
- 大谷事業主任 9日です。
- 松田委員 前回青少年フェスティバルと重ならないようにお願いしていたのですが、再度重なってしまいましたので、行政の方で重ならないように前もって言っていただきたいなと思います。
- 成田職員 前年以前の部会で話がありましたので、今後青少年フェスティバルと各青少年教育施設のイベントが日程重複しないように青少年フェスティバルの日程が決まり次第早めに各施設に連絡を、ということになりました。今年度は重複してしまい申し訳ございませんが、令和7年度は前日準備が令和8年3月14日の土曜日、当日が令和8年3月15日の日曜日に青少年フェスティバルを行うと決定しましたので、各指定管理者の皆様は来年度のイベントスケジュールを計画する際に、日程重複のないよう御配慮いただけると有難いです。よろしく願いいたします。
- 松田委員 黒川さんの自然体験フェスティバルが凄く良くて、参加したいという人が多いので、市の青少年フェスティバルと黒川さんの自然体験フェスティバルの両方参加できると有難いです。
- 番匠部会長 それでは他に御質問のある方はいらっしゃいますか。
- 境委員 2点質問がありまして、1点目は、各施設さんは施設の中長期整備計画をお持ちだと思いますが、お話を伺っていますとやはり突発的な対応をせざるを得ない修繕に御苦労されていると聞きます。その部分について、市の担当部局と調整や相談が十分に取れているのかを確認したいです。
- 柿森課長 施設整備については協定の中で、決まった金額以下は指定管理者が修繕、以上は市が修繕という扱いになっています。御指摘のとおり、各施設老朽化が進んでいるため、生涯学習推進課の職員が施設を訪問した際や各

施設からお話を受けて随時修繕をしておりますが、多くの市有施設の修繕を抱えておりますので、予算についてもある程度優先順位を付けて実施していくことになります。本来であれば子ども達が利用する施設のため、できるだけ修繕をし、また中長期的に施設の建て替え等も含めて検討していくところではありますが、現在はどうしても事後保全的になってしまっている状況です。

○境委員 ありがとうございます。どうしても対症療法的にならざるを得ないですね。マンションなどの施設メンテナンスはどうしても計画通りにはなかなかいかない、という話をよく話すので、気になって伺った次第です。ありがとうございます。

もう1点の質問というのが、夜の昆虫観察会について、非常に面白い活動だと思われましたので、ぜひそのノウハウを育成連盟の各団体にも御伝授いただければと思いました。今の子ども達は虫がいるところに行きたくないという子が8~9割、逆に虫が大好きという子は1割くらいです。やはり子ども達には虫にもっと親しんでもらいたいので、ぜひ見学をさせていただきたいというお願いと、先般施設の土壌整備でおがくず炭を作っていたと聞きましたが、それも土壌改良の一環でしょうか。面白い活動のため、そのお話を伺えたらと思います。

○野口所長 もみ殻ってお米を作る過程がたくさん出て農家の方は困るそうです。昔は燻炭といって、火をつけてもみ殻を炭にして畑にすき込んだそうですが、今はそれをすると怒られる時代ですから、しょうがなくそのままもみ殻を畑にすき込んでいます。そうすると油を含んでいるもみ殻はなかなか分解されなくて困るんだそうです。そのもみ殻をいただいて、土壌改良に使うためにドラム缶で燻炭を作りました。今度の12月の活動でまさに使う予定でして、穴を掘ったところに燻炭を入れることで根が張りやすくなる、保水になる、黒いので熱を溜めやすくなるなどの効果が期待されます。ただ、境委員が見学に来てくれて施設で作った時もそうですが、黒い煙が結構立つんですね、近隣住民の方のご迷惑にならない程度で今後も活動していけたらと考えています。黒川の施設が立地的に高台なので、農家の方だとできないこともこのセンターだと活動としてできる、という点がプラスだなと思っています。

○番匠部会長 ありがとうございます。それでは八ヶ岳少年自然の家より報告をお願いいたします。

○名取所長 はい、それでは令和 6 年度の業務進捗状況を報告いたします。今年度の目標が、利用人数は 96,000 人で設定、内容についてはサステナブルプログラムとして、落ち葉堆肥を作ろうと考えております。また、施設整備については開設から 48 年が経っておりますので積極的に実施していく、という目標設定をしております。

利用状況については、当施設は小学校、中学校の自然教室が利用のメインなのですが、今年度は自然教室のバスの入札不調の関係で予定していた時期が延期になりまして、4 月 5 月に来る予定だった小中学生が来られなくなりました。そのため、4 月 5 月の宿泊人数が対前年比で激減しています。それに伴って代替えの日程を急遽立てることになり、一般利用を全て予約のできない形を取り、また利用する学校数を減らすなどの調整が急遽おきました。最終的には中学校 1 校、小学校 3 校が八ヶ岳の施設を利用できないという状況になりました。その影響もありまして、大きく前年に比べて利用人数が減っています。年間についても目標達成はできないというのが確実かな、といった状況です。バス代がこれだけ高騰しますと、来年度についても既に影響が出ておりまして、バスの取れる日程が決まってくる中で、土日を含まないとバスが取れないというので、一般利用団体や青少年団体にも影響が出ている状況です。

昨年度中止になっていた職員の初任者研修は今年度実施ができました。次に主催事業は、八ヶ岳少年自然の家はもと小中学校の利用がメインなのであまり主催事業の数はありませんが、施設の中で星空を見られるアストロハウスがありますので、そこで星空観察会を実施しております。元職員である専門の講師の方をお呼びし、今年度はここまでで 9 回行っています。コロナ禍では人数制限をしておりましたが、現在は制限をなくし、参加人数も増えて大変好評をいただいている事業になります。

ふれあいサマーキャンプは富士見町と川崎市の共催で、八ヶ岳の自然観察会を施設からは事業として提案、実施をしております。その他今年度は新規で諏訪湖散策ウォーキングの実施を予定しておりましたが、小中学校の自然教室の延期に伴い、日程が取れず実施ができませんでした。また、サステナブル事業の一環としての落ち葉堆肥作りの体験を企画しましたが、募集期間が短かったこともあり参加者が集まらず中止となりました。最後に、青少年の家との共催事業として八ヶ岳の宿泊体験事業を実施しております。

結果としては中止にはなったもののサステナブルプロジェクトの中で、落ち葉の堆肥作り等、自然に循環させるプログラムを今後も続けていきたいと考

えております。八ヶ岳少年自然の家は木がたくさんありますので、落ち葉もいくらでもあります。子ども達には落ち葉を集めるところから始まり、それを堆肥にして、そこから地元で育てた野菜を食べてもらうという体験です。子ども達が野外活動で作るカレーの野菜くずなども入れながら堆肥を作る中で、こうやって自然は循環していきんですよ、という教育もこれから進めていきたいと考えております。今年度、既に何校かの小学校に対してプログラムを行っておりまして、実際に体験してもらうことができました。

その他の事業報告について、小中学校の受け入れについてはバスの関係で受け入れ日程に苦労しまして、利用者団体の方々にもご迷惑をお掛けしてしまいましたが、今後も同じような状況が見込まれるため課題があります。小中学校の田植え体験について、バスの関係で田植えの時期に来ることができずにいましたが、収穫したお米だけはなんとか届けたような状況です。また、学校へ向けての林業体験もプログラムをご紹介をしているところです。

夏休み期間については、先程今年の夏は暑いので八ヶ岳をお勧めしていただいているという話がありましたが、実は八ヶ岳も今年の夏はかなり暑かったです。今まで八ヶ岳はエアコンの無い施設で、いるだけで涼しいとまではいきませんが夏でもエアコン不要で問題なく過ごせていました。ですがいよいよ今年はエアコンが必要になってきたかなと感じるほど暑かったです。あまりにも大きい施設なのでエアコン設置も簡単にはいきませんが、今後の課題と考えています。次に、施設整備に関して、施設自体はやはり古いのであちこち故障等起きている状態です。利用者の方が宿泊中に故障し、何も体験ができなかったとならないよう、設備で何か起こったらすぐに対応しています。今年度一番大きいものでいうと私たちの事業の中でもメインの、星空観察をするアストロハウスで雨漏りがありまして、中にある天体望遠鏡がかなり高額のもので、それに水がかかるとまずいということで、修繕にかかる金額はかなり要したところではあります。市の対応では時間もかかるということで急遽我々の方で対応をしました。それを含めた大きな修繕のみを報告書に載せていますが、その他にも小さな修繕を色々しております。

今年度からシーツの使い方の変更を行いまして、今まではシーツ2枚を敷布団と掛け布団の間に敷いて使用しており、それにまた布団カバーをかけていたのですが、布団カバーの利用が衛生的ではないという意見もあり変更しました。今年度布団カバーを新しく3,000枚ほど購入し、今後はシーツの使用ではなく布団カバー利用者の方に使っていただくという運用にいたしました。

今一番困っているのが燃料費の高騰で、宿泊施設のため冬場の燃料費

が非常に高くなってしまいます。なんとか効率的に賄えるように、ということで利用者の皆様には申し訳ありませんが冬季だけ露天風呂を閉鎖という形を取らせていただいております。食事に関してはお米の値上がりが凄いものですから、今年度は4月から料金改定をさせていただいたところですが、それでも追いつかないくらいに物価高騰している状況です。

12月以降について、本来は条例上、自然の家は年末年始休館ということになっていますが、皆さんの要望にもお応えする形で利用者の受け入れを行います。予約状況としては現在ほぼ埋まっております。1月以降は中学校の自然教室もありますので、そちらについても安全安心に受け入れを行っていきます。また、皆様のお手元に所報をお配りしております。昨年度の事業内容等になりますので、お読みいただければと思います。自然の家からは以上になります。

- 番匠部会長 ありがとうございます。それではただいまの報告に質問がある方は挙手をお願いいたします。
  
- 境委員 10月、青少年育成連盟の会議に教育委員会の人がお見えになりまして、令和7年度の自然教室について、八ヶ岳少年自然の家を使わないという話をされておりました。あのエリアが元々は修繕計画の中での調査の結果として、土砂災害危険区域に一部かかっている、という話で、今後の展望としては、ボーイ、ガールスカウトとしては今度の夏休みにはボルチモアからの受け入れを検討しており、少年自然の家さん頼みのところがありますので、そのあたりの見通しについて教えていただけますでしょうか。
  
- 柿森課長 自然教室の在り方について検討している部分があります。バスの入札不調に伴い、何校かが別の施設を利用したことが今年度はありました。八ヶ岳少年自然の家を改築して使うのか、それとも土砂災害警戒区域にあるということで、他のところに建て替えをするのか、それとも他施設を活用するのか、幅広く検討しているところです。その中で来年度の自然教室では、試しに他の施設を使ってみようということをして、比較検討していくところでございます。施設の建て替え等については費用や安全性を含めて、検討中です。直ちに八ヶ岳少年自然の家がなくなる、という話ではないです。ちなみにボルチモアは7月ですか？

- 境委員 はい、来年の7月19日に来日し、8月上旬に離日予定です。
- 柿森課長 来年使えないということは、よっぽど大きな災害等が無い限りはまず無いかと思います。ただ、今後施設をどうしていくかといった将来的な話については、まだお話のできる状況にないため、お話のできるようになりましたらまたご説明させていただきますと考えております。
- 境委員 ありがとうございます、よろしく願いいたします。
- 番匠部会長 ありがとうございます。他に御質問ありますでしょうか。
- 大津委員 八ヶ岳のハザードマップの中で、資料として見せていただいているのは八ヶ岳少年自然の家周辺ですが、あの地域としてもっと全体的にイエローゾーンやレッドゾーンはありますか。
- 名取所長 富士見町については山間部ですので、土砂災害区域としてはたくさんあります。災害区域として指定されていない場所の方が少ないかもしれません。というのは、これは県が決めている中で何か起こってから「危ないよ」というのでは遅いため、「危険性はありますよ」という意味で出されている資料になります。ただ、今区域として出されている場所についても、これは私の所見にはなりませんが斜面はそこまで急ではないのと、実際の現場を見て指定しているわけではなく図面上で等高線を見て、そこに建物があつたから指定したという現状です。土砂災害と聞いたときに想像される、木がバタバタと倒れてくるような感じというよりは大雨が降った時にそこに水が集中しますよというのがレッドゾーンの認識です。またイエローゾーンについてはレッドゾーンから扇状に広がっていくので、そうすると町内のほとんどがイエローゾーンにかかって、富士見町に家を建てられるのか、というようなお話になってきてしまいますので、あまり大きく捉えられてしまうと私たちも非常に困ってしまうところでございます。
- 大津委員 私自身も、そこまで危険なエリアじゃないというのは現地を見て知ってはおりまして、どうしてレッドゾーンに指定されたのかなというのと、もっと危険な場所はあるんだろうな、という印象があります。八ヶ岳少年自然の家周辺だけではなく、町内の広範囲での資料をお持ちでしたら後日見せていただきたいです。

○境委員 青少年育成連盟でのご説明の中でも、建築などお仕事をされている方から見ても、そんなに危険という印象はなかったのに、どうしてそうなっちゃったんだろうねと話していました。やはりどうしても検査をして数値的に見ると、そう判断せざるを得ない、行政の立場からすると明確化せざるを得ないため、そうなったのではないかと話していたところで、我々自身が八ヶ岳を危険視しているわけではないです。ですが、今回直接伺って少し安心しました。

○松田委員 実際昨年この時期に視察という形で施設を隅々見学させていただきました。レッドゾーンの地域が広いということでしたがアストロハウスの下は平地の部分もあり、今ある建物も平野なので、建て直せる範囲で平らなところを使うとか、先程黒川野外活動センターさんの報告の中であったような植樹によって土を丈夫する取り組みをするなど、自然に囲まれた豊かな土地を川崎市の子供達に提供し続けていただきたいという気持ちが強くあります。川崎市内にもレッドゾーンはありますし、元々八ヶ岳に川崎市が所有する施設を置いた当時の理由を考えた際に、公害が先駆けかもしれませんが災害や津波など自然災害で何かあった時の第2の川崎というか、八ヶ岳に川崎市の所有する施設があり、みんなで子供達を守っていく場所がある、という状況はできるだけなくしたくないというのが私たちの団体の気持ちです。子供達の自然を体験する機会をなくさないように、みんなで守っていくことはできないかという思いがあります。3年間くらい猶予はあると思いますが、今後もみんなで八ヶ岳を利用していきたいと考えているので建て直しや災害対策など何か手段を通して施設を残していただきたい気持ちが強いです。

○番匠部会長 ありがとうございます。他に何かご意見ございますでしょうか。

無ければ4施設の報告は以上となりますので、今回各委員の皆さんから出された意見については今後の運営に反映していただくよう指定管理者の皆様をお願いしたいと思います。

それでは次の議事ですが、事業計画の報告について以外のご意見、また、全体を通してのご意見があれば挙手をしていただければと思います。

(挙手なし)

では私から2点、以前もお話がありましたが、現在色々なものが値上がりしている状況ですので、各指定管理の皆様は非常に苦労されているの

ではないかと思えます。それに対する市の方針や、物価高騰に対するご意見などありましたら教えていただければと思えます。

もう1点が、夢パークで200人も見学に来るといのは素晴らしいことだと思えます、それだけ価値があるという風に思えます。先週川崎100周年記念事業で、うちの大学でイベントをさせていただいた時には、川崎は子どもの権利条例が日本で初めてできた先進的な場所であるということを発表させていただきました。そういった日本に誇れる青少年の活動の地であることを、内外にもっと積極的にPRした方が良いんじゃないかなと思っております。各指定管理者の努力もあると思えますが、川崎市としても積極的に広報し、情報発信していく工夫があると、より良いのではないかと思えます。

○松田委員 昨年の会議の時に各指定管理者の方に時間をかなり使って作成いただいた動画で、良い資料があります。作りっぱなしではもったいないので、その動画をSNSで発信してはどうかというお話をさせていただいた時に、前任の方からは動画がある程度まとめたものを発信する方向で前向きに考えていると伺いました。SNSの影響は凄く大きいものだと思うので、川崎市が所有する大事な施設のPRを行い、利用者を増やすための情報発信をしていく方向でやっていただきたいと思えます。前回話のあった動画発信については引き継がれていますか。

○筒井係長 まとめて、お答えいたします。物価高騰についてになりますが、どの施設においても初年度に5年間分の予算を設定する形になっております。そういった中で八ヶ岳少年自然の家さん、青少年の家さん、夢パークさんは令和7年度がまでが今期の指定期間になり、来年度の夏頃にまた次の5年間の予算を設定する時期になりますので、その際に見積をいただいて、見込み幅を設定していただく形になるかと思えます。物価高騰だけでなく、色々修繕についてのお話もありましたので、それも含めた上で予算請求していく流れになります。今回令和3年から7年の中で、コロナによって3、4、5年度に物価高騰した部分もあると思えます。そのところは、国としても市としても補助が出ておりますし、追加の補助を随時行っていくところも今後想定されます。直近としては来年度、新たな予算設定を組むところでありますので、物価高騰に応じた予算を組んでいただきたく思えます。

次に広報については前任から引き継いでおります。私の方も動画の編集が

正直苦手なところがありまして、色々とアプリを調べて編集を行い本日データをお持ちしてお示ししようと思っていたのですが、市のパソコンにロックがかかっておりまして、後ほど大谷さんのパソコンで再生させていただければと思います。ただ、結論から申し上げますと、各施設からいただいた動画をそのまま使用すると利用者の顔が映っているため個人情報になってしまいます。黒川さんからいただいた動画を編集しましたが、私が持っているアプリのクオリティーですと顔にモザイクでかけようとしても動きにモザイクが追いつかないという状態で、各施設の中で一番短い黒川さんの4分の動画を編集するのにもかなり四苦八苦しております。対外的に発信するとなるとやはり顔を隠さなければいけないという部分がネックになっております。現在川崎市の中でも広報を専門にしている部署にもご相談しておりまして、現状では外に出すにはまだまだ難しいという部分が多いのですが、もう少しお時間いただければと思います。

○藤江委員 一般的な感想ではありますが、こんな近くにこんな素晴らしい施設があるというのを今日初めて知りました。SNSを使って広報をするにも個人情報を使うのは難しいというのもよく分かります。その中で、先程夢パークさんの報告でメタバースを使用しているという話もありましたが、4分5分の施設紹介動画を全て載せる必要はなくて、概要版の1分、2分くらいにまとめて発信するなどしても、それを見た人が「こんな施設があるんだ」ということでSNSにアップして繋がっていくのかなと思います。各施設の報告を聞いて、同じ林業についても全く異なる切り口でプログラムを行っているなど、どの施設もものすごく面白くて価値のあることをしていると思います。おっしゃっていた広報専門の部署と力を合わせて情報発信していくのは絶対に必要だと思いますのでぜひ進めていただければと思います。

○筒井係長 ありがとうございます。基本的には各施設さんも上手くSNSを活用されていて、毎日のように情報発信をさせていただいています。その中でプラスアルファで市としてもバックアップできればといったところで、我々もできる限り施設さんの負担にならないように、運営を第一としながら動画発信の形を整えていきたいと考えております。

また、再度になりますが、来年度の青少年フェスティバルは令和8年3月14日と15日になります。恐らくどの施設さんも予定を立て始めているかと思っておりますので、日程等考慮していただければと思います。

○番匠部会長 ありがとうございます。それでは全ての議事が終了しましたので、進行を事務局にお返しいたします。

○筒井係長 番匠部会長ありがとうございました。次回の予定は2月ごろに開催したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。日程調整のご依頼は早めにさせていただきますのでご回答のほどよろしく願いいたします。次回会場は青少年の家となります。

それでは以上で、令和6年度第1回の青少年教育施設専門部会を閉会させていただきます。